



青森県感染症発生情報  
(2026年第21週)

I 第21週の発生動向 (2026/5/18~2026/5/24)

1. 警報・注意報は発令されていません。
2. 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「後天性免疫不全症候群」です。

最終ページに掲載しています。

II 第21週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

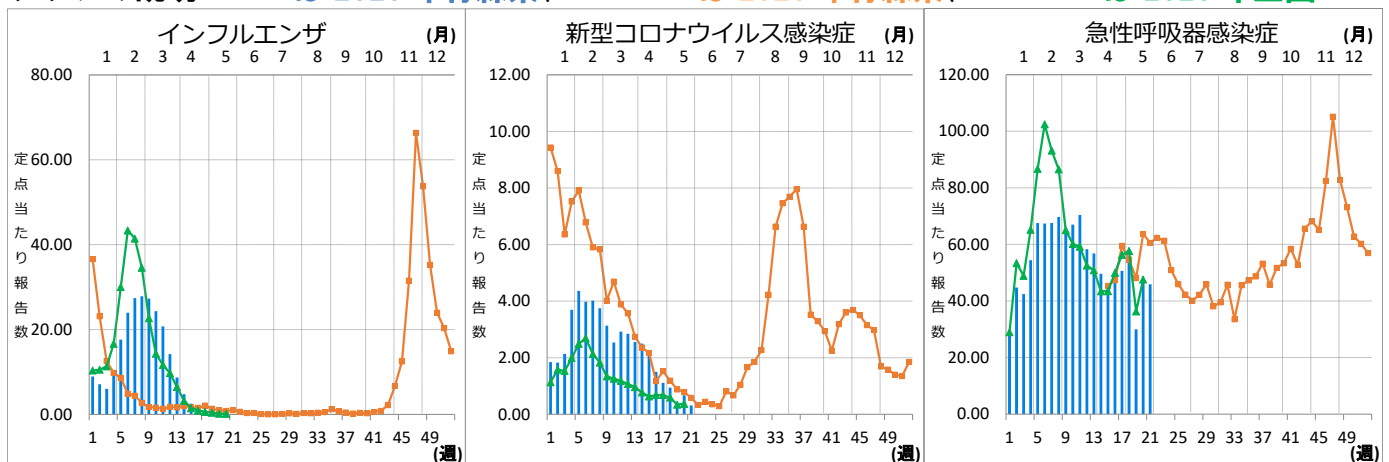
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」: 患者報告無し。

	東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減 数	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	2	0.18			2	0.20							4	0.08	-5
	新型コロナウイルス感染症	4	0.36	1	0.10	4	0.40	2	0.33	1	0.11	4	0.67	16	0.31	-19
	急性呼吸器感染症	699	63.55	335	33.50	393	39.30	257	42.83	344	38.22	357	59.50	2385	45.87	-60
小児科	R Sウイルス感染症			1	0.17	1	0.14			2	0.33	1	0.25	5	0.15	-1
	咽頭結膜熱			1	0.17	1	0.14					1	0.25	3	0.09	-7
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	2.50	10	1.67	5	0.71	5	1.00	19	3.17	3	0.75	57	1.68	-11
	感染性胃腸炎	19	3.17	23	3.83	24	3.43	38	7.60	1	0.17	1	0.25	106	3.12	-18
	水痘	2	0.33	3	0.50	2	0.29	2	0.40			1	0.25	10	0.29	3
	手足口病	2	0.33	1	0.17	1	0.14			4	0.67			8	0.24	6
	伝染性紅斑															0
	突発性発しん	2	0.33			3	0.43	1	0.20	2	0.33			8	0.24	-2
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎			1	0.17									1	0.03	1
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											3	3.00	3	0.50	2
	無菌性髄膜炎															0

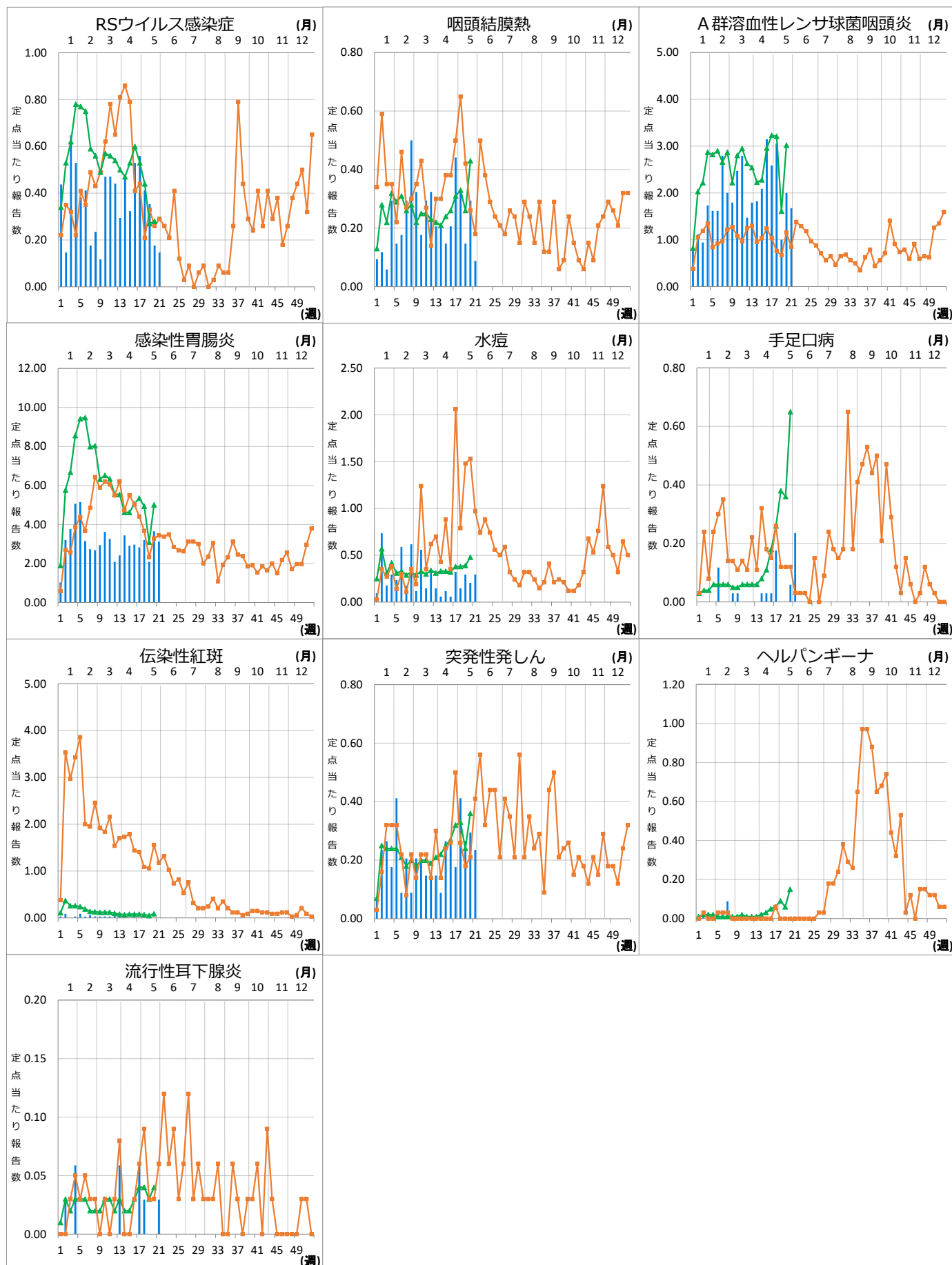
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第21週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ← は2026年青森県、■は2025年青森県、▲は2026年全国



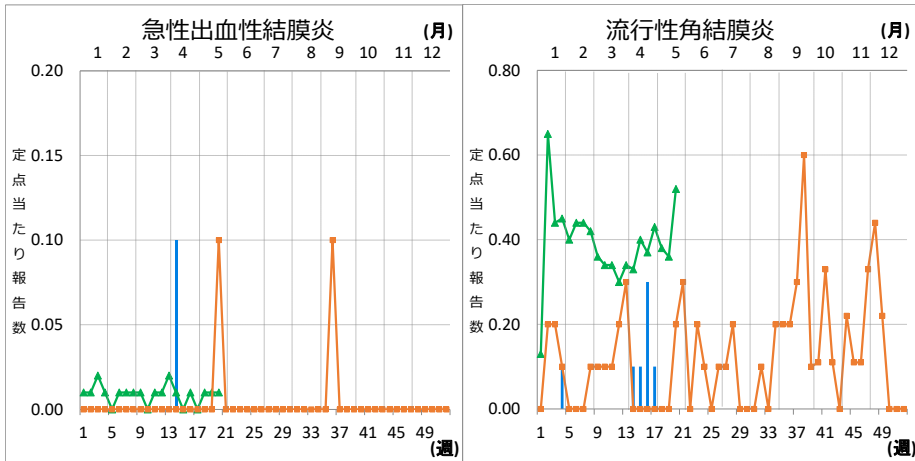
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第21週、ただし全国は前週）

グラフの説明   は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



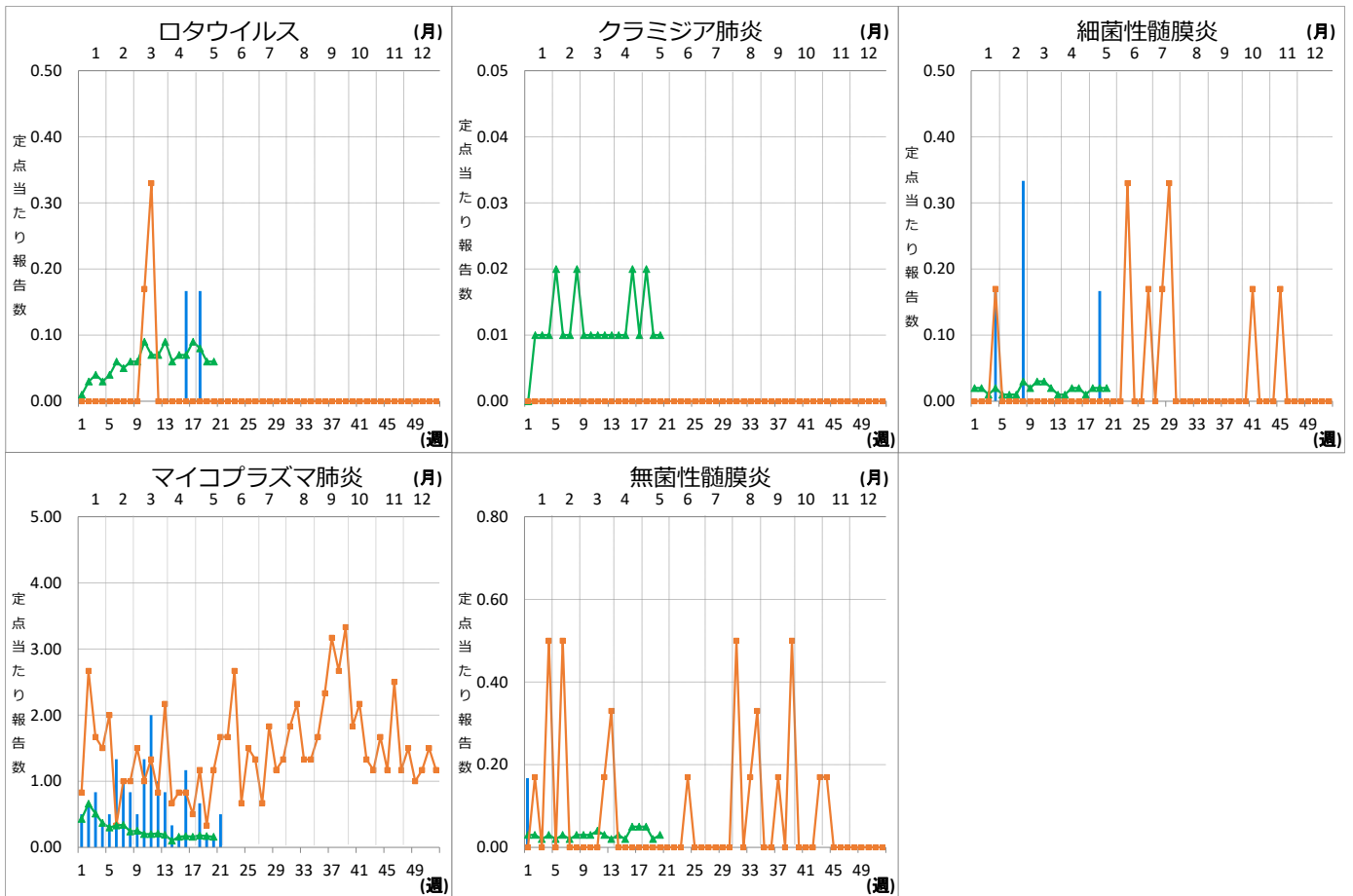
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第21週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第21週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



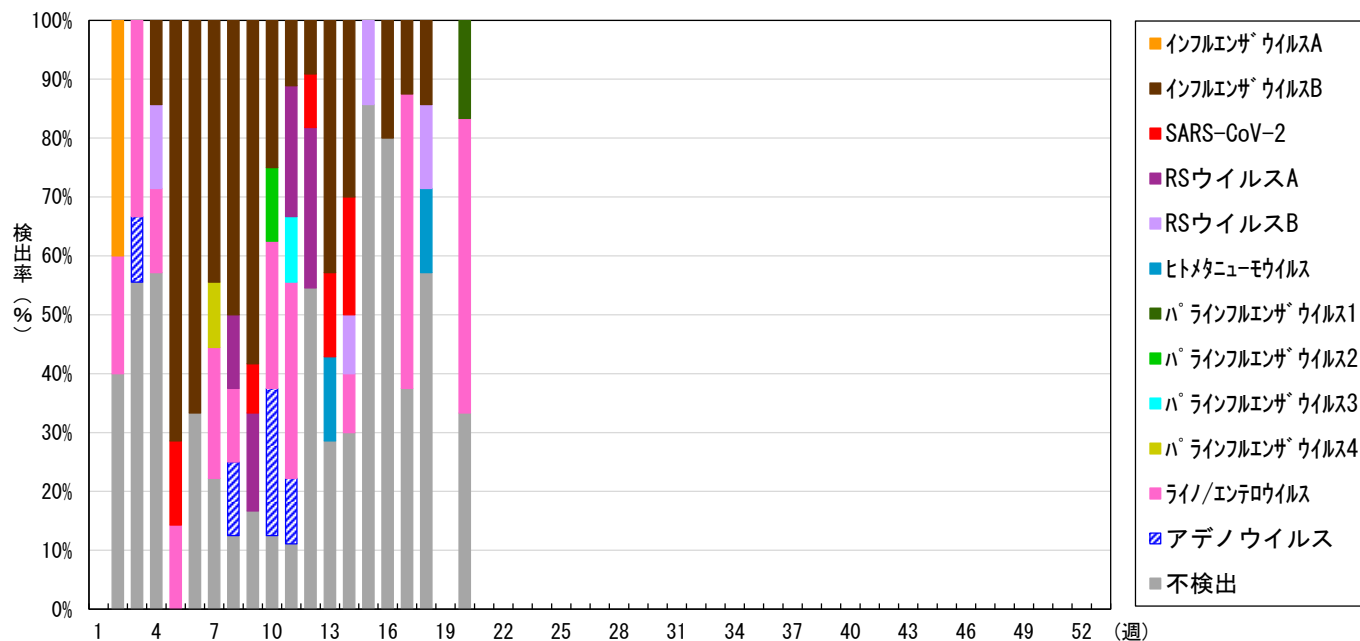
## Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

### (1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第14週～21週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週
提出検体数	10	7	5	7	7	0	6	7
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルスB	3	0	1	1	1	0	0	0
SARS-CoV-2	2	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスB	1	1	0	0	1	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	1	0	0	0
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	1	0
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	0
ライノ/エンテロウイルス	1	0	0	4	0	0	3	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0
不検出	3	6	4	3	4	0	2	0
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	7

※第17週に提出された検体のうち、インフルエンザウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

### (2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～20週)



### Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 21 週）

- ・細菌性赤痢（三類感染症）：八戸市 1 人 (2026 年計： 1 人)
- ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（五類感染症）：上北 1 人 (2026 年計： 2 人)

### Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026 年第 18 週～2026 年第 21 週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
18	梅毒1人	劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人	結核1人 百日咳1人		腸管出血性大腸菌感 染症1人	結核2人
19					結核1人	
20	結核3人	カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 1人	結核1人	結核1人	結核2人	
21			細菌性赤痢1人		カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 1人	

**X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）**（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

**全国**（2026年第1週～第20週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	5208	33	772	13	5	249	92	6	57	1

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
累積報告数	2	49	1	48	31	69	2	13	654	4

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症
累積報告数	179	71	367	8	177	4	62	564	324	12

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳
累積報告数	223	28	1294	302	43	4084	70	35	38	2862

分類	五類	五類	五類
疾病名	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	2	498	6

**青森県**（2026年第1週～第21週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症
累積報告数	35	1	7	3	1	2	2	6	1	4

分類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	百日咳
累積報告数	8	6	6	18

**XI 病原体検出情報**

報告はありませんでした。

## Ⅶ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第21週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第21週	報告なし		

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月				6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18週	19週	20週	21週	22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	1	2	0	0								15
	発症者数	37	44	69	23	13	29	0	0								215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	1	1	0	0								10
	発症者数	92	0	30	73	13	11	0	0								219
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0	0								2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0	0								38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0								0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0								0
計(月別)	件数	7	2	8	5			5									27
	発症者数	149	44	117	96			66									472

## 感染症の窓

6月1日～7日はHIV検査普及週間です

後天性免疫不全症候群（AIDS、エイズ）は、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）の感染によって免疫不全が生じ、日和見（ひよりみ）感染症（本来なら自分の免疫力で抑えられるような肺炎などの病気）や悪性腫瘍が合併した状態をいいます。

HIV感染後2～6週間に、感染者の50～90%に、右図に示す兆候・症状などが単独あるいは複合して見られると言われています。

いずれもHIV感染に特異的な症状ではありませんが、HIV陽性者あるいはHIV感染のリスクがある人との性的接触などがある場合は、早期発見のためにHIV検査を行うことが大切です（感染直後は検査で感染を判別できないため、HIVへの感染が疑われる日から3カ月以上経過してからの検査をお勧めしています）。

現在、HIVを体内から完全に排除できる治療法はありませんが、抗HIV薬によってウイルスの増殖を抑え免疫力の低下を防ぐことで、HIVに感染していない人と同じように健康的な社会生活を送ることができます。また、血中からHIVが検出されない状態を維持することで、性的接触による感染を防ぐこともできます。エイズ発症後での治療は発症前と比べて難しくなるため、HIV感染を早期に発見し、早期治療につなげることが大変重要です。

県内の各保健所では、匿名・無料のHIV検査（即日検査）を実施しています。また、希望する場合には、性感染症の性器クラミジア感染症・梅毒についても、同時に匿名・無料で検査できます。検査は電話・インターネットで予約できますので、心配な方は、まずは最寄りの保健所（エイズ相談専用電話）に相談しましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。☎ [青森県 STOP AIDS\(青森県庁 HP\)](#)



### 後天性免疫不全症候群

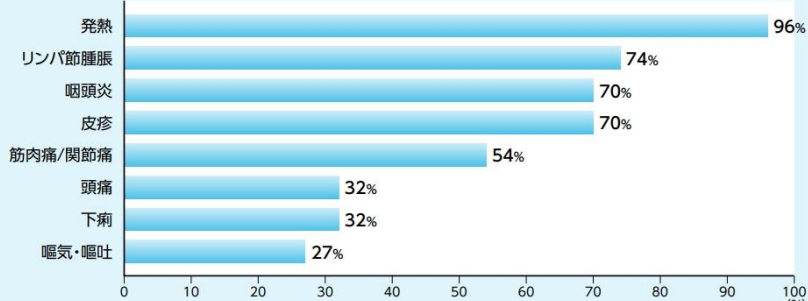


図 急性 HIV 感染症の症状 (HIV 感染症「治療の手引き」(日本エイズ学会 HIV 感染症治療委員会)より抜粋)